

創作した漢字の色紙を持つ鈴木さん(右)と樋口さん(左)。既存の漢字を基に「このまぐく」「けしゅう」の手を考えた



創作漢字 関心アップ

浅川町、小中学生コンクール

【すんたらす】

【ひだり】

【にとりゅう】



漢字の重要性を生徒にわかりやすく伝えるため、浅川町では今年から、小中学生を対象とした「創作漢字コンクール」が始まった。町教委は「漢字の成り立ちを楽しく学んでほしい」と、夏休み中の県内の小中学生に促している。

ユーモアいっぱい 学び楽しむ

「す」の縦の画を短くし「ん」の横の画を長くし「たらす」を左右反転した「ひだり」、手偏に「投・打」のつくりを並べた「にとりゅう」。浅川小4・6年、浅川中1・3年を対象にした初回は創意工夫あふれる288点が寄せられ、入賞者には創作した漢字を記した色紙が贈呈された。

小学4年の部最優秀賞を受けた鈴木花さん(11)は「浅川小5年」は「米の右払いを取った『このまぐく』の字を考案。『右払いを取るとバランス良く感じた。自分で漢字を考えるのが楽しかった』と笑顔を見せる。『化』のつくりを『母』

【すんたらす】を考えた「けしゅう」で同5年の部最優秀賞に輝いた樋口葵陽さん(11)は「同6年」は、コンクールをきっかけに友人と漢字について会話をしたという。「みんなの作品を見て『本当にあつても良さそうだな』と感じた。もっと多くの漢字を覚えたい」と意欲を示す。

その中で「漢字に親しむ機会をつくらう」とコンクールを企画した。真田秀男町教育長(67)は「予想以上にユーモアのある作品ばかりで、審査するのが楽しかった」と初回の手応えを語る。

町教委はコンクールを定期的に開く方針だ。「漢字への親しみが深まれば学習意欲の向上にもつながる。遊びながら学べる取り組みとして継続したい」と真田教育長。子どもたちの心を動かす創作漢字の普及に努める。(秋山敬祐)

吉田富三の理念

コンクール実施の背景には吉田の理念がある。国語審議会の委員だった吉田は「日本人は漢字と仮名で物事を考えており、漢字仮名交じりの表記こそが日本文化の根源だ」と、漢字が日本語に必要不可欠と主張した。この理念を踏まえ、町教委は子どもの漢字力を育む施策を講じてきた。2022年度からは町が検定料を全額補助し、小学4・5年生と中学1・2年生全員に漢字検定を受けようという取り組みを展開している。

▲ 7月28日 福島民友新聞掲載

あなたなら、どんな漢字を生み出しますか？



記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。

(When)

(Where)

(Who)

(What)

(How)

(Why)